

業務そくほう

日本貨物鉄道産業労働組合

2023. 10. 27

No. 700

2023年年末手当 趣旨説明を行う

本部は、10月25日、趣旨説明を行いました。以下、報告します。

(組合)

コロナ収束後も、世界情勢や物価上昇等で、JR貨物グループは厳しい舵取りを余儀なくされているが、このような中においても、組合員は「JR貨物は必ず復活する」を合言葉に、また、国からの指定公共機関の責務として、日々、安全安定輸送に努めており、この難局を労使が一体となって打破していかなければならないことを強く認識して頂きたい。

大幅な物価上昇により、組合員の家計は相当厳しいものとなっている。2023春闘・2023年夏季手当においては低額回答に終わり、物価上昇の他にも、子供にかかる学費等や光熱費等も含め、全てにおいて値上がりし、また、期末手当は嗜好品費ではなく生活費の一部となっており、さらに、年越し・正月等で出費が重なり負担は増すばかりである。

労働条件改善が見えなければ、将来に対しての不安は増し、夢と希望を持って入社した社員が、「このままJR貨物に働いていて大丈夫なのか？」と離職が加速していく。JR貨物が厳しい状況は十分に理解しているが、このような状況下の中で良い労働条件を示すことは、JR貨物の大きなアピールにもなり、離職防止や将来に渡り優秀な人材確保の足掛かりに繋がる。これは、JR貨物グループにも同様なことが言え、来年には「2024問題」が控え、JR貨物に対する期待は大きく、この期待に応えるためにも、JR貨物グループ全体の士気を向上させ、将来に向け発展に繋げていくことが必要である。

貨物鉄産労は会社の経営を常に考え、JR貨物における政策課題解決に向けJR連合と共に取り組んでおり、今年度だけの業績に特化せず、これまでの会社の業績をみれば私達の主張に答えられる体力は十分にあると認識する。先にも述べたが、組合員の安全安定輸送により、日々、大きなトラブルもなく列車は運行され、会社が策定した「JR貨物グループ長期ビジョン2030」を構築するためには組合員の協力が不可欠であり、組合員の士気を上げるためにも労働条件改善は必須である。

最後に、これまでに全国各地で起きた甚大な自然災害により、多くの方々が被災され復興にはまだまだ時間を要する。被災された方々のためにも、復興に貢献できる安全で信頼される会社を築き上げ、社会的使命を果たしていかなければならない。犬飼社長は「JR貨物の未来は明るい」と発信したが、明るい未来を築くには組合員の力が必要不可欠であり、会社の状況が厳しい時こそ経営者の手腕が試される。

以上を踏まえ、労使は同じ船に乗っており、どちらかが傾けば船も傾くことを強く認識し、組合員の悲痛な叫びと私達の主張を受け止め、満額回答を強く求める。

会社・コロナ感染はまだまだ続いており、また、インフルエンザも増えており、感染予防に努めて頂きたい。度重なる自然災害や輸送障害の中で、日々、安全安定輸送に努めて頂き改めて感謝申し上げます。詳しい収支状況については収入動向で申し上げますが、2024問題でJR貨物にとって追い風という部分もあるが、足元をみると非常に厳しい状態が続いている。期末手当については業績をみて判断していくが、生活費の一部であることも十分認識している。以上を踏まえ、厳しい環境下であるが、今後、真摯に交渉を重ねていきたい。

組合・中間決算はいつか。

会社・決まり次第連絡する。

組合・2023年度単体事業計画は20億円だったが、10月改定ではどのようになっているのか。

会社・△15億円である。

組合・荷物が増えない理由は何か。

会社・物価上昇による買い控え等、様々な要因が考えられるが、企業が異常時に備え、鉄道輸送だけでなく、他の輸送モードも使用していることが一つあげられる。自動車関連や積み合わせ貨物は戻ってきているが、他の荷物が戻ってきていない。

組合・2024問題が控えており、すでに良い話は入ってきているのか。

会社・何件か良い話が入ってきている。

組合・会社の状況は厳しいのは重々理解しているが、私達の生活も厳しいことを理解して頂き、真摯な議論をお願いしたい。

会社・承知した。

次回交渉(収入動向)は、11月2日(木)を予定しています。

以上